

写真で振り返る 所沢市のあゆみ 1970~1980年代

この年代には基地の一部が3度に亘り返還され、その跡地は並木地区となり市庁舎や駅、公園など様々な施設が整備されました。また、関越自動車道や武蔵野線が開通し、交通網も整備されるように。1976(昭和51)年には市の人口も20万人を超え、中核的都市としての色が濃くなりました。

1970 (昭和45年)

- 市制施行20周年を記念して文化会館が開館
- 所沢市総合振興計画基本構想が議決される
- 市街化区域と市街化調整区域を決定

1971 (昭和46年)

- 基地第一次返還

1973 (昭和48年)

- 国鉄武蔵野線が開通。柳瀬地区に東所沢駅ができる

1975 (昭和50年)

- 防衛医科大学校が所沢に移転

1976 (昭和51年)

- 市民体育館完成/市民医療センター オープン
- 市の人口が20万人を超える

1978 (昭和53年)

- 基地第二次返還
- 県営所沢航空記念公園、一部開園

1979 (昭和54年)

- 市消防庁舎(現:所沢中央消防署)完成
- 西武ライオンズ球場完成
- 国立身体障害者リハビリテーションセンター(現:国立障害者リハビリテーションセンター)オープン

1980 (昭和55年)

- 市制施行30周年を記念して、第1回市民フェスティバルを開催

1982 (昭和57年)

- 市の人口25万人を超える
- 基地第三次返還

- 陸運事務所所沢支所開設、所沢ナンバー交付開始

1983 (昭和58年)

- 狭山ヶ丘駅東口区画整理条例可決

1985 (昭和60年)

- 所沢市新庁舎建設着工

1986 (昭和61年)

- 所沢駅西口再開発ビル(愛称ワルツ)オープン
- 新庁舎竣工 昭和62年1月に業務開始

1987 (昭和62年)

- 所沢市民憲章を制定
- 斎場竣工
- 航空公園駅開業

1988 (昭和63年)

- 国土庁の地価公示で宮本町の住宅地が全国一の上昇率に

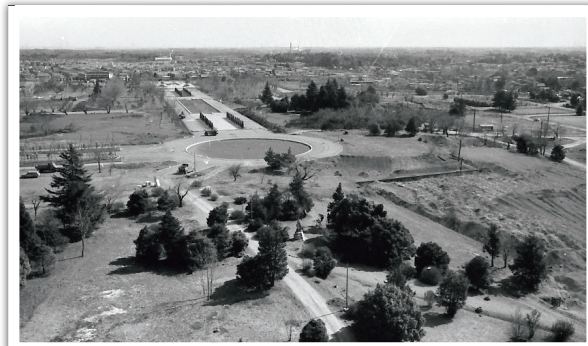


▲ 第一次返還式 (1971・昭和46年)

1971(昭和46)年6月30日、基地内の建物で返還式が行われました。返還式は日米両国の国歌演奏により厳粛に開式され、日米両国の代表者によって署名が行われました。



▲ 畑に囲まれていた市民プール (1973・昭和48年)



▲ オープン直前の所沢航空記念公園 (1978・昭和53年)



▲ 第1回市民フェスティバル (1980・昭和55年)
市制施行30周年を記念して開催。以後、所沢を代表するイベントに。

わたしたちが見る お父さん・お母さん のアルバム



お父さんやお母さんがまだ小さかった頃、今の並木地区がアメリカから返還されたんだ。1971(昭和46)年に基地の6割ほどが返還されて、そこに今の市役所や警察署、所沢航空記念公園ができたんだって。

そして、この20年の間には現在市内にある駅がいくつかできたことで交通の便も良くなって、人口も20万、30万人とどんどん増えていったんだ。市のいろいろな施設もこの時代にできたそうだよ。

ほかにも、西武ライオンズ球場ができてライオンズが所沢で活躍するようになるなど、所沢がすごく賑やかになっていく時代だったんだね。

所沢駅西口再開発ビル(ワルツ)オープン

所沢駅西口地区では、都市化の進展に対応した整備を進めるために1976(昭和51)年に都市計画を策定し、再開発事業が進められてきましたが、その中核となる商業ビルが所沢駅に隣接する形で建設され、1986(昭和61)年4月にオープンを迎えました。

愛称の“ワルツ”は一般公募の多くの案の中から、軽快なリズムが所沢のイメージにふさわしいなどの理由により決まりました。



▲ 所沢駅西口

西武ライオンズ球場完成

1979(昭和54)年に、掘り下げ方式で3万5千人以上を収容できる大スタジアムが完成。

その後ライオンズは1982(昭和57)年に、所沢移転後、初の日本一に輝きました。



▲ 西武ライオンズ球場 (1985・昭和60年)



▲ 新市庁舎竣工 (1986・昭和61年)



▲ 建設中の防衛医科大学校病院 (1972・昭和47年)



▲ 国鉄武蔵野線東所沢駅開業 (1973・昭和48年)



▲ 西武新宿線航空公園駅開業 (1987・昭和62年)

基地返還のタイミングで、跡地に新市庁舎・学校・病院・公園などを整備し、今の所沢市の中心部を作ったんだ。
今も残る基地は、返還後はどのように利用されるんだろう？

